

燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標の達成状況について

燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：H27～R1）は、国が推進する「まち・ひと・しごと創生」に関する施策について、本市の実情から人口減少対策に特化した基本計画であり、「第2次燕市総合計画」の3つの人口増戦略を具現化する計画として、これまで取組を進めてまいりました。令和元年度末の計画期間終了と第2期総合戦略の策定を見据え、現時点における達成見込値等により成果を評価します。

I 総合戦略の基本目標・KPI(重要業績評価指標)の達成状況(※)

- 「しごとプロジェクト」「まちプロジェクト」では、全ての基本目標で「基準値より改善」以上の成果を上げる見込みとなった。また、KPIについても、「しごとプロジェクト」「まちプロジェクト」では全ての指標が「基準値より改善」以上となる見込みとなった。
- 「ひとプロジェクト」では、基本目標の2指標がともに基準値を下回る見込みとなっている。一方でKPIは、ほとんどの指標で「基準値より改善」以上となる見込みとなっている。
- 「フラッグシッププロジェクト」では、基本目標は設定していないが、東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界的イベントでの燕製金属洋食器の採用を目指す取組が順調に進んでいる。なお、KPIについては、ほとんどの指標で「基準値より改善」以上の結果となる見込である。

【各プロジェクトに関する基本目標の達成状況】

評価	評価の説明	評価の基準/ 目標値達成率(%)	しごと (3項目)	ひと (2項目)	まち (1項目)	フラッグシップ (基本目標の設定無)
◎	達成	100%以上	1 (33.3%)	0	1 (100.0%)	—
○	概ね達成	90～100%	1 (33.3%)	0	0	—
△	基準値より改善	90%未満	1 (33.3%)	0	0	—
▼	改善を要する	基準値未満	0	2 (100.0%)	0	—

【各プロジェクトに関するKPIの達成状況】

評価	評価の説明	評価の基準/ 目標値達成率(%)	しごと (15項目)	ひと (10項目)	まち (7項目)	フラッグシップ (6項目)
◎	達成	100%以上	8 (53.3%)	7 (70.0%)	7 (100.0%)	1 (16.7%)
○	概ね達成	90～100%	1 (6.7%)	1 (10.0%)	0	0
△	基準値より改善	90%未満	6 (40.0%)	1 (10.0%)	0	4 (66.6%)
▼	改善を要する	基準値未満	0	1 (10.0%)	0	1 (16.7%)

※KPIは、総合戦略に関するもののみを対象に評価。地方創生推進交付金事業、地方創生拠点整備交付金事業等のKPIは含んでおりません。

2 <<プロジェクトI しごと>>つばめ産業ブランド創生プロジェクトの達成状況

- 製造業や農業といったものづくりの後継者や担い手を育成し、産地産業を維持・発展させ、継続的な雇用を創出することを目指し「販路開拓」「新産業育成」「担い手人材育成」に関する事業を進めた。
- 基本目標は、「市町村内総生産」で目標値の達成が見込まれる。「製造品出荷額等」「従業者一人当たり製造業付加価値額」では、目標値に届いていないものの着実に進捗している。
- しかしながら、人手不足の深刻化などの地域経済の減速要因もあり、今後の見通しは予断を許さない状況にあることから、産地産業の維持・発展や雇用創出に向けた取り組みは、引き続き重要である。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
製造品出荷額等	3,844億6千万円 (2013年)	—	4,065億3千万円 (2014年)	4,413億2千万円 (2015年)	4,350億9千万円 (2016年)	4,303億1千万円 (2017年)	4,310億円	99.8% (○)
従業者一人当たり 製造業付加価値額	818万円 (2013年)	—	772万円 (2014年)	797万円 (2015年)	889万円 (2016年)	844万円 (2017年)	950万円	88.8% (△)
市町村内総生産	3,225億円 (2012年度)	3,246億円 (2013年度)	3,178億円 (2014年度)	3,228億円 (2015年度)	3,524億円 (2016年度)	3,524億円 (2017年度)	3,350億円	105.2% (◎)

①販路開拓

- 地域ブランド化の推進に関する取組として、金属製タンブラー、アイスクリームスプーンなどにおけるコラボ商品の開発・販売等による「ものづくりのまち・燕市」のブランド力向上や、海外見本市出展に向けた支援等による産地産業グローバル展開支援事業を進めた。
- 広域連携による産業情報発信に関する取組として、燕三条地場産業振興センターによる海外販路開拓事業や燕三条ものづくりメッセの開催等を行った。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
地域ブラン ド化の推進	金属製品製造出荷額	826億6千万円 (2013年)	—	857億9千万円 (2014年)	906億3千万円 (2015年)	957億3千万円 (2016年)	955億4千万円 (2017年)	910億円	105.0% (◎)
	海外見本市出展企業 数(各支援機関補助制 度活用企業数)	8社 (2014年度)	14社 (2015年度)	17社 (2016年度)	22社 (2017年度)	26社 (2018年度)	30社 (2019年度)	20社	150.0% (◎)
広域連携 による産業情 報発信	海外販路開拓展開企 業輸出入額	25,996百万円 (2012年)	20,158百万円 (2013年)	24,764百万円 (2014年)	26,755百万円 (2015年)	23,996百万円 (2016年)	26,100百万円 (2017年)	31,000百万円	84.2% (△)
	燕三条ものづくりメッ セの成約/見積依頼/引合 い/相談件数	1,600社 (2014年度)	1,900社 (2015年度)	1,936社 (2016年度)	2,557社 (2017年度)	2,863社 (2018年度)	2,900社 (2019年度)	3,000社	96.7% (○)

②新産業育成・競争力強化

- 新産業育成に関する取組として、医療機器研究会による医療機器の研究・試作・開発や燕製フィギュアスケートのブレード開発など、次世代産業育成事業を進めた。
- ものづくり現場力強化事業として、小規模事業所でも取り組める品質管理第三者認証制度の「燕市ものづくり品質管理制度（TS0）」などのものづくり現場力強化事業を進めた。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
新産業育成	医療機器メーカー依頼の試作開発件数(累計)	6件 (2015年3月末)	9件 (2016年3月末)	21件 (2017年3月末)	33件 (2018年3月末)	34件 (2019年3月末)	36件 (2020年3月末)	30件	120.0% (◎)
	薬機法における製造業等の許認可を新たに取得した企業数(累計)	—	2社 (2016年3月末)	5社 (2017年3月末)	6社 (2018年3月末)	6社 (2019年3月末)	6社 (2020年3月末)	5社	120.0% (◎)
	産学連携などによる共同研究数(累計)	—	0件 (2016年3月末)	0件 (2017年3月末)	1件 (2018年3月末)	1件 (2019年3月末)	1件 (2020年3月末)	1件	100.0% (◎)
ものづくり現場力強化事業	認証事業所数(TSO)(累計)	48社 (2015年3月末)	50社 (2016年3月末)	50社 (2017年3月末)	51社 (2018年3月末)	48社 (2019年3月末)	53社 (2020年3月末)	100社	53.0% (△)
	ものづくり現場力強化事業参加事業所数(累計)	13社 (2015年3月末)	13社 (2016年3月末)	23社(2017年3月末) ※2017.3事業終了	—	—	—	23社	100.0% (◎)

③人材育成

- 産地基盤技術の伝承に関する取組として、生産現場等で次代を担う監督者向けの研修や、高齢化などで失われつつあるナイフ製造職人の育成研修などを行うつばめ産業レガシープロジェクトを進めた。
- 創業支援・担い手育成に関する取組として、新たな創業に対して支援を行うつばめ創業支援事業、経営力や競争力向上、農カアップ・コスト低減に向けてチャレンジする農業経営者を支援するチャレンジファーマー支援事業を実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
産地基盤技術の伝承	次代を担う監督者研修参加者数(累計)	10人 (2015年3月末)	15人 (2016年3月末)	23人 (2017年3月末)	32人 (2018年3月末)	34人(2019年3月末) ※2019.3事業終了	—	60人	56.7% (△)
	特定技能継承企業等立ち上げ数(累計)	—	0件 (2016年3月末)	1件 (2017年3月末)	1件 (2018年3月末)	1件 (2019年3月末)	1件 (2020年3月末)	1件	100.0% (◎)
	新規の技術修行者数(累計)	—	0人 (2016年3月末)	0人 (2017年3月末)	0人 (2018年3月末)	0人 (2019年3月末)	0人 (2020年3月末)	3人	0% (△)
創業支援・担い手育成	補助金・利子補給を受けて創業した者の数	—	21人 (2015年度)	13人 (2016年度)	12人 (2017年度)	23人 (2018年度)	25人 (2019年度)	20人	125.0% (◎)
	新規創業者数	26人 (2014年度)	23人 (2015年度)	14人 (2016年度)	24人 (2017年度)	30人 (2018年度)	35人 (2019年度)	50人	70.0% (△)
	チャレンジファーマー支援事業申請数	—	11件 (2015年度)	23件 (2016年度)	17件 (2017年度)	18件 (2018年度)	22件 (2019年度)	30件	73.3% (△)

- 若者・女性が輝くつばめプロジェクトとして、地元定着や転入増の流れをつくり、結婚や子育てを応援する事業を実施した。
- 基本目標については、人口の全国的な「東京一極集中」や当市での急激な出生数の減があり、「社会増減（純移動数）」「出生数」ともに、今のところ思った成果に結びついていないことから、事業の継続はもちろん、若い世代の結婚・出産・子育てへの支援等、内容の充実化が必要である。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
社会増減 (純移動数)	△88人 (2014年)	△180人 (2015年)	△169人 (2016年)	△252人 (2017年)	△259人 (2018年)	△146人 (2019年)	±0人	0% (▼)
出生数	600人 (2014年)	601人 (2015年)	592人 (2016年)	544人 (2017年)	493人 (2018年)	486人 (2019年)	625人	77.8% (▼)

①地元定着・転入増の流れをつくる

- U I J ターン就労支援に関する取組として、東京圏に在住する燕市の学生・若手社会人等との交流促進や仕事・暮らしの情報の発信、つばめ産学協創スクエア事業によるインターンシップの受入などを進めた。
- 女性が輝くつばめプロジェクトとして、各分野で活躍している女性や女性の活躍を応援する事業所等の表彰、金融機関・女性起業家グループとの連携による創業講座、市内事業所による職場環境整備工事への補助事業を実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
U I J ターン 就労支援	移住相談者にかかる 本市定住者数(累計)	—	0人 (2016年3月)	2人 (2017年3月)	3人 (2018年3月)	33人 (2019年3月)	63人 (2020年3月)	50人	126.0% (◎)
	県外との 社会増減数	△145人 (2014年)	△264人 (2015年)	△200人 (2016年)	△323人 (2017年)	△244人 (2018年)	△174人 (2019年)	△54人	0% (▼)
女性が輝く つばめプロ ジェクト	ハッピーパートナー 企業に登録された数	30社 (2015年3月末)	35社 (2016年3月末)	36社 (2017年3月末)	36社 (2018年3月末)	41社 (2019年3月末)	47社 (2020年3月末)	60社	78.3% (△)
	女性創業者数(累計)	13人 (2015年3月末)	11人 (2016年3月末)	24人 (2017年3月末)	31人 (2018年3月末)	40人 (2019年3月末)	50人 (2020年3月末)	25人	200.0% (◎)
	職場環境整備補助企 業における新規女性 雇用者数(累計)	—	29人 (2016年3月末)	58人 (2017年3月末)	114人 (2018年3月末)	155人 (2019年3月末)	170人 (2020年3月末)	100人	170.0% (◎)

②結婚・子育て応援

- 男女の出会いサポート事業として、出会いの場の開催、縁結び団体の活動支援などを実施した。
- 妊娠から育児までの切れ目ない支援として、妊娠・出産・子育てに関する総合窓口の開設、不妊治療に係る費用の一部助成などの母子保健支援サポート事業を進めた。
- 子育て世帯生活支援として、子育て世代などを対象とする住宅取得にかかる費用の一部補助や、保育園に子育て活動スペースを増築して子育てセンター機能の整備を進めた。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
男女の出会いサポート	出会い応援団の数	—	29団体 (2016年3月末)	29団体 (2017年3月末)	44団体 (2018年3月末)	50団体 (2019年3月末)	60団体 (2020年3月末)	60団体	100.0% (◎)
	出会いサポート事業を通じたカップル成立率	—	46.2% (2015年度)	42.4% (2016年度)	51.4% (2017年度)	50.0% (2018年度)	50.0% (2019年度)	30%以上	100.0% (◎)
妊娠から育児までの切れ目ない支援	特定不妊治療助成事業利用者の出生数(累計)	38件 (2014年度末)	43件 (2015年度末)	60件 (2016年度末)	71件 (2017年度末)	81件 (2018年度末)	92件 (2019年度末)	98件	93.9% (○)
	育児相談利用者の割合 (2か月児育児相談会)	57% (2014年度)	56% (2015年度)	64% (2016年度)	67% (2017年度)	70% (2018年度)	70% (2018年度)	70%	100.0% (◎)
子育て世帯生活支援	子育て世代住宅取得支援制度を利用して市外から移住した人数(累計)	66人 (2014年度末)	186人 (2015年度末)	338人 (2016年度末)	491人 (2017年度末)	596人 (2018年度末)	716人 (2019年度末)	580人	123.4% (◎)

4 《プロジェクト3 まち》ホストシティつばめプロジェクトの達成状況

- 産業観光、インバウンド観光の強化により、本市の魅力に惹かれ、訪れたい・応援したいと思う人を増やすことを目指し、魅力づくりと発信、広域観光連携の促進、受入体制の整備に関する事業を進めた。
- 基本目標の「観光客入込数」については達成したことから、この流れを継続するための取組が必要である。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
観光客入込数	速報値699,100人 (確定値694,394人) (2014年)	672,901人 (2015年)	573,180人 (2016年)	681,326人 (2017年)	830,964人 (2018年)	943,500人 (2019年)	770,000人	122.5% (◎)

①魅力づくりと発信

- 産業観光の推進として、産業観光ナビゲーターの育成や、産業観光受入体制整備事業で製品製作工程の映像制作、見学者用駐車場整備、見学通路整備等に関する補助などを実施した。
- インバウンド観光の推進として、観光施設の案内看板等の多言語化や、台湾などをターゲットに各種プロモーション活動を実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
産業観光の 推進	産業観光ナビゲーターやボランティアガイドが受け入れた企業・団体数	—	21団体 (2015年度)	30団体 (2016年度)	46団体 (2017年度)	87団体 (2018年度)	87団体 (2019年度)	50団体	174.0% (◎)
	オープンファクトリー受入人数(累計)	—	—	6,874人 (2017年3月末)	16,009人 (2018年3月末)	18,521人 (2019年3月末)	20,000人 (2020年3月末)	250人	8,000% (◎)
インバウンド観光の 推進	外国人観光客入込数 (産業史料館)	30人 (2014年度)	60人 (2015年度)	120人 (2016年度)	236人 (2017年度)	47人(4~6月) (2018年度)	350人 (2019年度)	100人	350.0% (◎)
	外国人観光客入込数(燕三条地場産業振興センター)	300人 (2014年度)	1,170人 (2015年度)	1,159人 (2016年度)	2,312人 (2017年度)	3,355人 (2018年度)	3,500人 (2019年度)	1,200人	297.1% (◎)

②広域観光連携の促進

- 広域観光連携の推進として、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンによる弥彦村との連携強化や、燕三条工場の祭典を開催した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
広域観光連携の 推進	燕三条工場の祭典参加企業数	59社 (2014年度)	68社 (2015年度)	96社 (2016年度)	103社 (2017年度)	109社 (2018年度)	112社 (2019年度)	100社	112.0% (◎)

③受入体制の整備

●受入体制の整備として、道の駅国上の売店・食堂棟の増改築、産業史料館のリノベーションを実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

区分	KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
受入体制の 整備	道の駅・国上売上 額の伸び	31,035千円 (2014年度)	35,931千円 2014年度比 15.8%増 (2015年度)	35,848千円 2014年度比 15.5%増 (2016年度)	47,865千円 2014年度比 54.2%増 (2017年度)	65,915千円 2014年度比 112.4%増 (2018年度)	66,000千円 2014年度比 112.7%増 (2019年度)	37,242千円 2014年度比 20%増	563.5% (◎)
	道の駅・国上来館 者数	103,918人 (2014年度)	107,020人 (2015年度)	106,521人 (2016年度)	166,534人 (2017年度)	182,828人 (2018年度)	183,000人 (2019年度)	115,000人	159.1% (◎)

5《フラッグシップ プロジェクト》つばめ東京オリンピック・パラリンピックプロジェクトの達成状況

●東京2020オリンピック・パラリンピックを本市の魅力を世界に発信する絶好の機会とするため、オリンピック・パラリンピックへの参画を目指し、「しごと・ひと・まち」の各プロジェクトを横断する事業に取り組んだ。

①東京オリ・パラを契機とした産業再生

●東京2020オリンピック・パラリンピックの選手村等での燕製金属洋食器の採用を目指した各種取組の展開や、日本洋食器工業組合との連携によるカトラリー検定の普及に関する取組を進めた。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
新たに改良・開発する製 品数(累計)	—	0点 (2016年3月末)	0点 (2017年3月末)	0点 (2018年3月末)	3点 (2019年3月末)	3点 (2020年3月末)	5点	60.0% (△)
マルチポイント等で燕製品 を採用する国(累計)	—	0か国 (2016年3月末)	0か国 (2017年3月末)	0か国 (2018年3月末)	0か国 (2019年3月末)	0か国 (2020年3月末)	3か国	0% (△)
カトラリーソムリエ認定 者数(累計)	52人 (2015年3月末)	55人 (2016年3月末)	57人 (2017年3月末)	59人 (2018年3月末)	67人 (2019年3月末)	75人 (2020年3月末)	100人	75.0% (△)
カトラリー検定の東京会 場での年間受験者数	20人 (2014年度)	9人 (2015年度)	13人 (2016年度)	7人 (2017年度)	12人 (2018年度)	10人 (2019年度)	50人	20.0% (▼)

②英語教育の推進（ジャック&ベティプロジェクト）

- 小中学生向け英会話教室、保育園・幼稚園・こども園へのJTEの配置、英語スピーチコンテスト、海外親善大使派遣などによるジャック&ベティプロジェクトを実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
英検3級取得の中学生の割合	10.2% (2014年度)	25.3% (2015年度)	22.9% (2016年度)	29.0% (2017年度)	20.3% (2018年度)	35.0% (2019年度)	50%以上	70.0% (△)

③東京オリ・パラ事前キャンプの誘致

- ・オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致に向けたモンゴル国パラアーチェリー選手団の合宿受入や、一流アスリートを招聘して小中学生向けのスポーツ講習会などを実施した。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

KPI目標値	基準値	2016.3時点実績 (H27年度)	2017.3時点実績 (H28年度)	2018.3時点実績 (H29年度)	2019.3時点実績 (H30年度)	実績見込 (R1)	目標値	達成率 (評価)
東京オリ・パラのキャンプ誘致	0か国 (2015年度末)	—	1か国 (2016年度末) ※覚書締結による	1か国 (2017年度末)	1か国 (2018年度末)	1か国 (2019年度末)	1か国	100.0% (◎)

※モンゴル国と東京オリ・パラの事前キャンプに関する覚書を締結した時点から実績として計上しています。

6 現戦略の総括（今後の方向性）

- 産業観光やインバウンド観光の推進、道の駅・国上の整備などを進めてきた、本市を知り、訪れ、ファンになってもらうための「交流人口増加対策」は、観光客入込数の増加や東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致など、着実な成果が見込まれていることから、流れを継続させる展開が必要である。
- 産業・経済の発展と安定した雇用創出に関する取り組みの「産業経済発展対策」は、商品開発や販路開拓への支援、新産業育成や創業支援の推進等により、一定の成果が見込まれる。また、東京オリ・パラ選手村等での燕製金属洋食器の採用を目指した取組も順調に進んでいる。しかしながら、地域経済は予断を許さない見通しもあることから、引き続き取り組むことが重要である。
- U I Jターンの推進や結婚・子育て応援に関する事業を進めてきた「人口の自然減対策」「人口の社会減対策」は、個々の事業がある程度の成果を示しているものの、全国的な「東京一極集中」や「少子高齢化・人口減少」の動向もあり、目標としている「出生数」「社会増減（純移動数）」の達成は難しいことから、若い世代の結婚・出産・子育てへの支援など、施策の一層の充実化が必要である。
- 人口の「自然減対策」「社会減対策」を更に強化し、急激な人口減少に一定の歯止めをかけるとともに、「産業経済発展対策」「交流人口増加対策」を通し、人口減少により起こりうる地域経済の衰退などの問題に対応する、地方創生の取組を地域の活力向上のために引き続き推進するものとする。
また一方で、将来における人口の減少は必至であることから、今後は、地域社会のあり方を人口減少を前提に見直していく必要がある。